

第5学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「たがいの立場を明確にして、話し合おう」 教材名「よりよい学校生活のために（コラム「意見が対立したときには」を含む）」

2 単元の目標

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う（(2)イ）。目的や意図に応じて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討し、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる（A(1)ア・オ）。言葉がもつよさを認識するとともに、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。（(2)イ）	①「話すこと・聞くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討している。（A(1)ア） ②「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。（A(1)オ）	①粘り強く、互いの立場や意図を明確にし、学習の見通しをもって、よりよい学校生活のために計画的に話し合おうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

本単元は、学校生活の中から解決したい課題を選び、グループで解決の案を出し合って、互いの立場や意図をはっきりさせながら話し合い、考えをまとめる単元である。学習指導要領第5学年及び第6学年のA(1)オ「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること」を中心に置き、話し合う前の準備に当たるA(1)ア（目的や意図に合わせて話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討すること）を合わせて扱う。言語活動はA(2)ウ「それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動」に当たる。学校生活の課題は子どもにとって身近で、一人一人が自分の案をもつので、立場の違いが自然に生まれる。案の根拠になる材料（アンケート・観察・聞き取りなど）を集め、図に整理して関係付けることが、(2)イ「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方」を使う場面になる。コラム「意見が対立したときには」は、立場が分かれた時に話し合いをどう進めるかを確かめる材料として使う。第4学年までに学ん

だ、司会などの役割を意識し、共通点や相違点に着目して考えをまとめる学習（〔第3学年及び第4学年〕A(1)オ）を受け、本単元では、立場の違いの奥にある意図まで確かめて話し合う。同じ指導事項は第6学年でも扱う。

（２）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（３）指導について

指導に当たっては、次の三つを大切にします。まず、立場を「案」として提案カードに書かせ、案・理由・根拠の材料の三つをそろえてから話し合いに入る。意図は「その案で何を大事にしたいか」と言い換えて、質問で確かめさせる。また、「計画的に」を形にするため、話し合いの計画（目的の確認→案と理由→質問→比べる→まとめる→決まったことの確認）を子どもが前もって立て、計画表に印を付けながら進める。そして、考えを「広げる」段階と「まとめる」段階を分け、まとめる時は、一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付ける、などの方法から目的に合う物を選ばせる。自分の立場を理由と根拠で示し、相手の意図を確かめる質問をし、目的に照らしてまとめる発言がある姿を「おおむね満足できる」状況、対立した案の意図を比べて、両方の意図を生かした案や条件を付けたまとめを提案する姿を「十分満足できる」状況の目安にする。

５ 指導と評価の計画（全6時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○学校生活の中で、よりよくしたいこと（話題）を出し合い、グループごとに話し合う話題と目的を決める。 ○学習の見通しをもつ。	態①（観察）
第2次	2	○自分の案（立場）を決め、案の理由と、根拠になる材料（アンケート・観察・聞き取り など）を集める。	思①（提案カード・メモ）
	3	○集めた材料を図に整理し、分類したり関係付けたりして、自分の案と理由を見直す。	知①（図・提案カード） 思①（提案カード）
	4	○話し合いの計画（目的の確認→案と理由→質問→比べる→まとめる→決まったことの確認）を立てる。 ○コラム「意見が対立したときには」を読み、立場が分かれた時の話し合いの進め方を確かめる。	
	5 （本時）	○グループで話し合う。互いの立場と意図を確かめながら考えを広げ、目的に照らしてまとめる。	思②（観察・話し合いメモ）
第3次	6	○グループで決まった考えを学級で報告し合う。 ○話し合いの進め方を振り返り、立場や意図を明確にするために役立った言い方をまとめる。	思②（報告） 態①（振り返り）

6 本時の指導 (5/6)

(1) 本時の目標

よりよい学校生活のための話し合いで、互いの立場や意図を明確にしながら計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりできる。(A(1)オ)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 話し合いの目的と計画を確かめる。 ○「今日の話し合いで、何を決めますか。どの順で話し合いますか」 【めあて】立場と意図をはっきりさせて話し合い、よりよい学校生活のための考えをまとめよう。 2 前時に確かめた、立場が分かれた時の進め方を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・ ～を減らすための取り組みを決める。 ・ 案と理由を出す、質問する、比べる、まとめる、の順に話し合う。 ・ 意見が分かれたら、目的に戻って考える。	・ グループの計画表を机の上に置かせ、今どこを話しているかに印を付けさせる。 ・ 立場が分かれた時の進め方は、前時に学級で確かめた言葉を黒板に掲示しておく。コラムの言葉は先生が教科書から書き入れる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
展開 (分)	3 グループで話し合う。 (1) 一人ずつ、自分の案と理由、根拠になる材料を言う。 ○「あなたの案は、何を大事にした案ですか」 (2) 互いの案の意図を確かめる質問をする。 ○「その案にしたのは、どんなことを大事にしたいからですか」 (3) 案を比べ、考えを広げる。 ○「それぞれの案の意図に、共通する所はありますか。対立している所はどこですか」 (4) 目的に照らして、考えをまとめる。 ○「目的に合うように考えをまとめるには、どの方法がよいですか（一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付ける など）」 4 まとめ方の違うグループの話し合いを、全体で聞き比べる。 ○「このグループは、対立した意見をどうやってまとめましたか」 〈予想される児童の反応〉 ・わたしの案は～で、理由は～だからです。アンケートでは～という結果でした。 ・～さんの案は、安全を大事にしているのですね。 ・どちらの案も、みんなが気持ちよく過ごせることを目指している所は同じだ。 ・～さんは楽しさを、～さんは安全を大事にしている所が対立している。 ・二つの案を合わせて、～にしたらどうか。 ・～という条件を付ければ、～さんの案でもよい。 ・意図を確かめたら、対立していないことに気付いた。 ・目的に戻ったら、まとめ方が決まった。	・案を言う時は、提案カードの「案」「理由」「根拠の材料」の順で言わせる。 ・反対だけを言う子には、「相手の案は何を大事にしているか」を先に言い直させる。 ・立場の違いを人の違いにしないよう、意見と人を分けて話すことを確かめる。 ・話し合いが計画からそれたら、計画表の印を見て戻るよう促す。 ・発言しにくい子には、提案カードを読み上げてから話してよいことにする。 ・先生はグループを回り、意図を確かめる質問と、まとめ方を選ぶ発言を記録する。 ・まとまらないグループは、決まったことと決まっていないことを分けて報告させる。結論が一つにならなくても、考えが広がったことを価値付ける。 ◎思② 互いの立場や意図を確かめながら計画に沿って話し合い、目的に照らして考えを広げたりまとめたりしている。 (観察・話し合いメモ)
まとめ (分)	5 本時の学習を振り返る。 ○「立場や意図をはっきりさせるために役立った言い方は、どれですか」 【まとめ】互いの案の意図を確かめてから比べると、対立した意見も、まとめ方を選んでまとめられる。 6 次時は、決まった考えを学級で報告することを知る。 〈予想される児童の反応〉 ・「何を大事にした案ですか」と聞いたら、対立していないと気付いた。 ・条件を付けるまとめ方が使えた。	・振り返りは「役立った言い方」「次の話し合いで使いたいまとめ方」の二つで書かせる。 ・話し合いメモと計画表を回収し、評価に使う。

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

上段左に日付・単元名・めあて。上段右に話し合いの計画（目的の確認→案と理由→質問→比べる→まとめる→決まったことの確認）。中段左に、立場をはっきりさせる言い方（「わたしの案は～、理由は～」 「～を大事にした案ですか」）。中段右に、立場が分かれた時のまとめ方（一つを選ぶ・合わせる・条件を付ける・順番を付ける）。下段に、全体で聞き比べたグループの話し合いを、案と意図を図にして並べ、共通点を線で結び、対立点に印を付ける。右端にまとめと振り返りの観点。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

